

環境問題シリーズ 第22章

地球環境改善チェックシート
2022年自己採点



地球環境に学ぶサークル

- 昨年6月、各サークルのご協力で118名の方に自己採点して頂いた結果、皆さまの環境に対する取り組みは、まだ改善が必要であることが分かりました。(昨年の結果は2021年「広場9月号」に掲載)
- そこで1年が経ちましたので再度自己採点(1~5の評価)により、どれだけ改善が進んだかを把握し、さらに改善を継続するきっかけにして頂ければと考えています。
- 集計結果は12月の広場紙面でご報告する予定です。ご協力よろしく申し上げます。
(ところざわ倶楽部会員の方はサークル理事にチェックシートをお渡しください)

環境行動宣言2021と具体的取組項目		自己採点 (5点満点)	今後の改善取組のヒント
1 温暖化抑制	再エネ重視の新電力へ切換え		低価格を訴える新電力が多いが、問題は再エネ比率。再エネ主体で東電並価格なら新電力を選ぼう。
	環境重視の企業・政治家を応援		環境を企業イメージや選挙活動に使う者が多い。騙されずに本物を見極めるのは市民の責任。
	庭やベランダで緑や野菜栽培		植物は光合成で空気中のCO ₂ を吸収、O ₂ を排出。
	車使用の削減、車のEV化		CO ₂ 発生量の約20%は車。徒歩、自転車、公共交通を利用しよう、EVも今後価格低下が期待される。
	照明LED化、こまめな節電		家庭の電力消費の約15%は照明、LEDの消費電力は蛍光灯の50%。
	冷暖房エネルギーの削減		高断熱のマンションや二重窓で冷暖房エネルギー削減。
	太陽光発電・温水器の利用		太陽光発電普及率9%(2020)。太陽熱温水器は効率良く設備費用は太陽光発電の1/4以下。
2 大気・海洋汚染防止	使い捨てプラスチック包装の削減		日本の使い捨てプラスチックの使用量は米国に次ぎ2位。
	エコバック・マイボトル持参		エコバック利用率は約80%、マイボトル利用率は約40%。
	環境に優しい洗剤を使用		洗剤の約10%は石鹼、合成洗剤90%(経産省2018)、環境重視で石鹼に切り替えよう。
	包装プラスチックをスーパーへ返却		所沢もいずれごみ回収有料化に進む、スーパーへの返却を今のうちに習慣化しよう。
	地元産品の購入		遠隔地の産品を買うと輸送によるCO ₂ 発生が莫大。
3 食料廃棄削減	もったいない、食べ残しゼロ		日本の食品廃棄612万t/年、48Kg/人(農水省2017)。
	過剰生産廃棄される食品不買		恵方巻、おせち、クリスマスケーキ等の季節品。
	賞味期限が近い商品の積極購入		賞味期限に振り回されず買い物をしよう。賞味期限と消費期限は異なる。
	計画的食品購入と冷蔵庫内管理		冷蔵庫を日頃から整理しないと食品廃棄が増える。
4 3Rの徹底	ごみ分別による再利用促進		日本はごみの約80%を焼却(環境省)し、多くのCO ₂ を排出している。
	生ごみを焼却せず肥料化		燃えにくい生ごみをごみ回収に出さず、家庭のコンポスト等で菜園や花壇の肥料とする。
	衣類リサイクルの活用		市のエコステーションに持ち込む、春秋の「もったいない市」に出す、メルカリやハードオフ利用もお勧め。
	節水(トイレ、シャワー)、雨水利用		最新トイレは10年前より66%節水、便器交換は10-20万円程度。
合計点			



この1年間で特に取り組まれたこと

